

静岡県沿岸における貝類の生態的分布(その1)

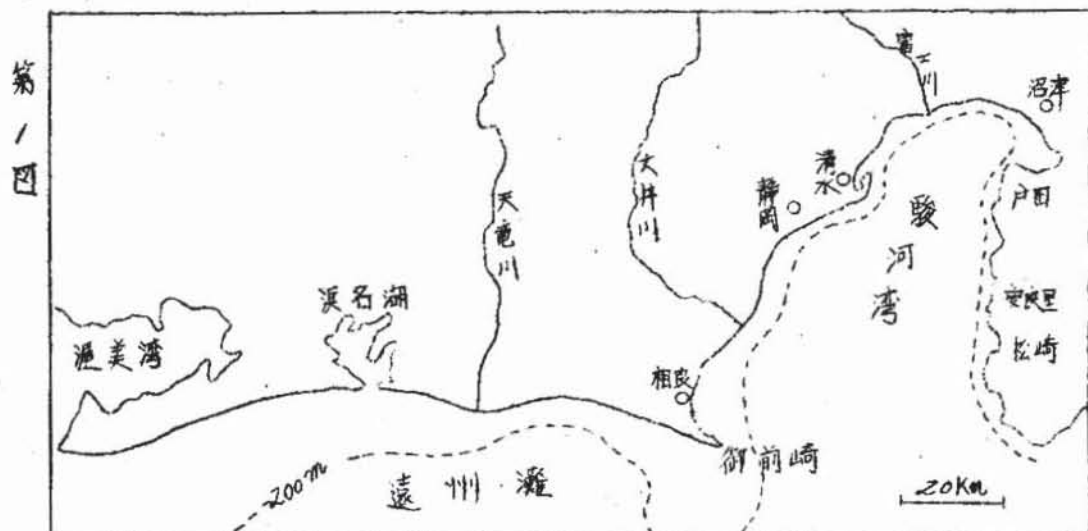
著者	土 隆一
雑誌名	地学しずはた
巻	11
ページ	1-5
発行年	1956-08-01
出版者	静岡大学教育学部地学研究部
URL	http://doi.org/10.14945/00005980

静岡県沿岸における貝類の生態的分布(その1)

土 隆 一

貝類の生態と古地理・古地形との関係についてはすでに若干の考察を試みた(本誌№9)。貝化石群Molluscan Fossil-assemblageの古生態学的研究を進めて行くためには、まずその基礎として現生貝類の生体群集Community, Biocoenoseとそれから導かれる遺骸群集Thanatocoenoseおよびそれらの相互関係、またそれらを生ぜしめた地形的要因や海況などの環境条件を研究することはきわめて必要である。特にこの方面の生態学的資料は現在のところまだまだ不十分であり、今後大いに精密な調査をおこなつてゆかなければならない。

筆者は上のような見地から、現生貝類のそれぞれの海域における生体群集および遺骸群集の調査研究を試みてきた。幸にも静岡県には駿河湾・遠州灘の地形的に著しい対照をなす二大海湾を



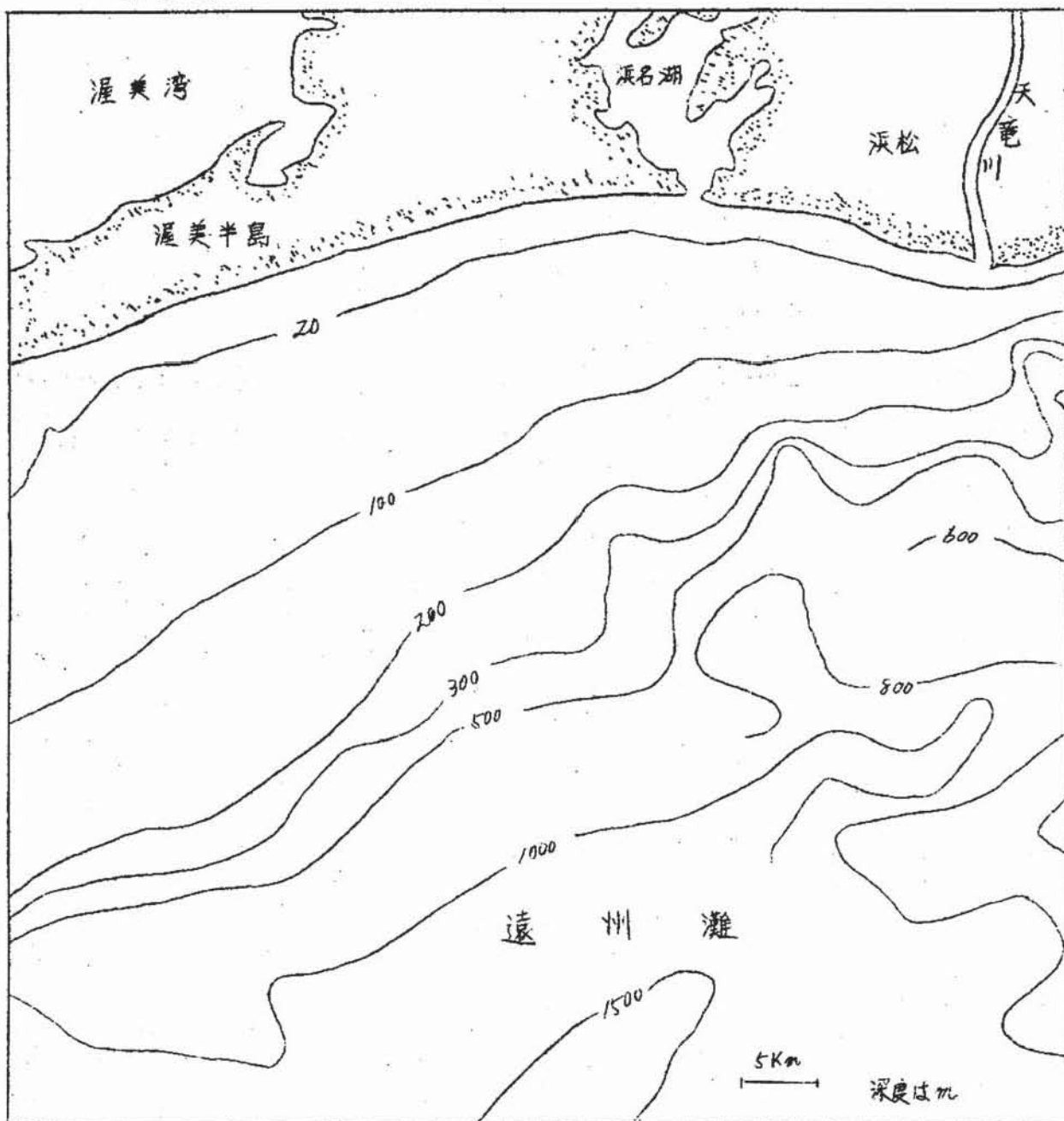
はじめ、沿岸にあまたの小内湾をつくっており、それらにおける、貝類の生態的分布や群集組成もきわめて興味深い。

現在のところ、駿河湾・遠州灘・御前崎附近・清水港・折戸湾・伊豆西岸の戸田湾・安良里湾・松崎港・浜名湖・渥美湾(愛知県)の調査をおこなっているが、それぞれの群集についての詳しい報告は別の機会にゆずる事としてここではその概略をのべるだけにとどめたい。

なお、これらの調査および採集に関しては望月勝海、黒田徳米、滝庸、の諸先生ならびに波部忠重、大山桂の諸氏からは深切に御指導頂き、県水産試験場、清水港工事事務所、御前崎港築港事務所、海上保安部、東大附属水産実験所、県下各地の漁業組合、観光協会からはいろいろと便宜をはかつて頂き、野口博、小川賢之輔、立島秀雄、角田庄蔵、中村兵吉の諸氏には標本の提供や採集について少からぬ御援助を頂いた事を記して厚く御礼を申しあげる。また、設備上の制約その他の都合で詳細な調査はなかなか難かしいが、今後も研究を進めてゆくにあたって多くの方

々からの色々な御指導をお願いしたい。

第2図



遠州灘は黒潮の影響をかなり受ける外洋性海域であり、波の荒い単調な砂浜が特徴的で御前崎から渥美半島までずつとつづいている。海岸からは遠浅で、10Kmないし20Kmまで、かつ深さ100尋まではいわゆる陸棚が発達し、底質は一般的に言つて沿岸近くでは細砂からなつており、沖にゆくにしたがつて泥質がちになつてくる。

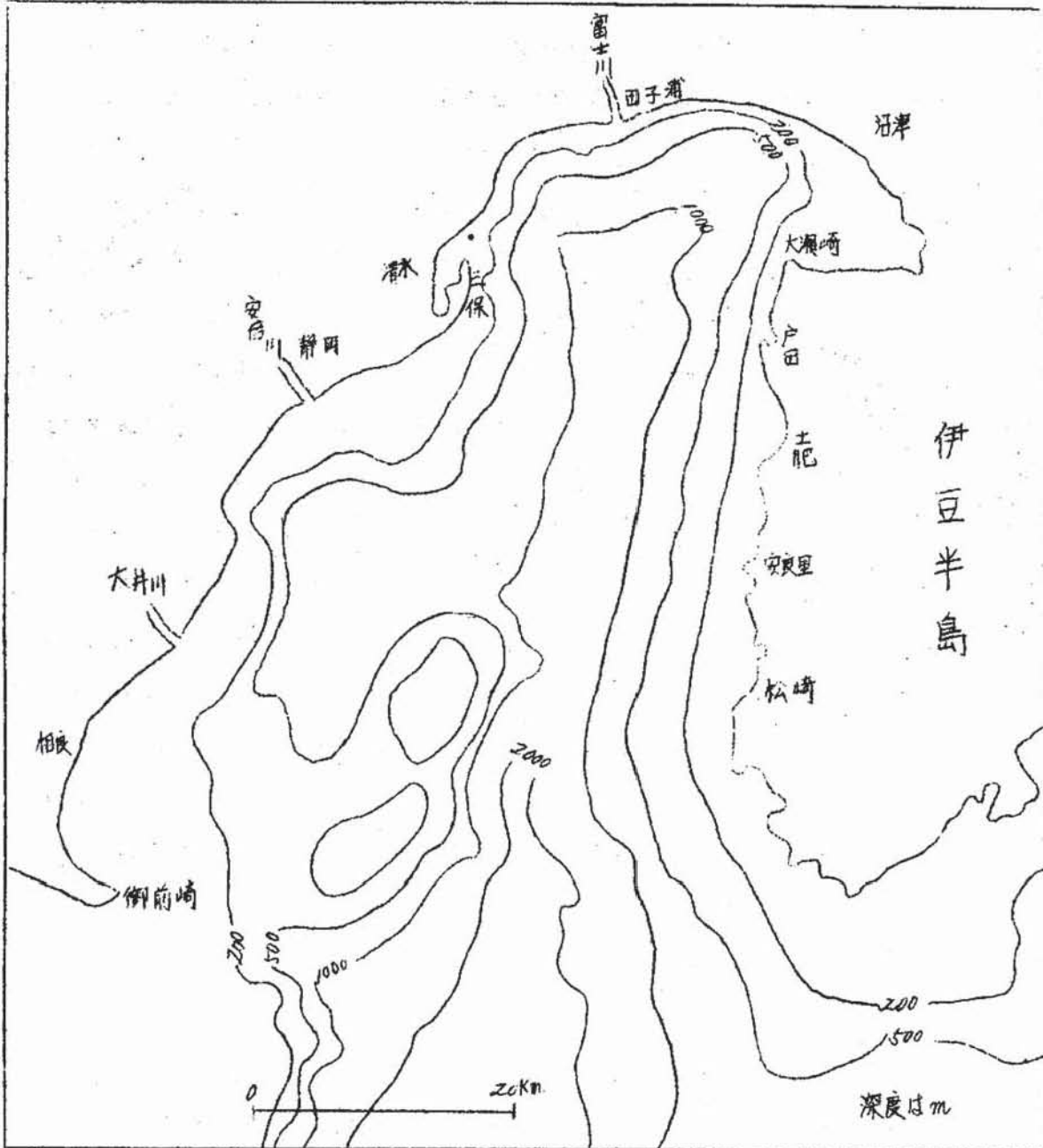
この海域に棲む貝類もこれらの影響を受けたため特徴的な群集からなつている。

潮線附近から4尋位までにはダンベイキサゴ *Umbonium (Suchlum) giganteum* (LESSON)、チョウセンハマグリ *Meretrix lamarckii* DESHAYES、コタマガイ *Gomphina (Macrodiscus) melanaegis* ROEMER、ワスレガイ *Sunetta (Sunettina) Concinna* DUNKER など外洋性砂底を好むものがふつうに棲み、それより深くには サトウガイ *Anadara (Scapharca) satowi* (DUNKER) ベンケイガイ *Glycymeris (Veletucea) albolineata* (LISCHKE) バイ *Babylonia japonica* (REEVE) シマミクリ *Siphonalia Signum* (REEVE) などが見られる。さらに30尋から60尋ぐらいのところからは ボウシユウボラ *Charonia saullae* (REEVE)、アラレガイ *Nassarius (Niotha) clathratus* (LAMARCK)、ビワガイ *Ficus subintermedius* (d.ORBIGNY)、ミオツクシ *Siphonalia trochulus* (REEVE)、イタヤガイ *Pecten (No ovola) albicans* (SCHRÖTER)、スダレガイ *Paphia euglypta* (PHILIPPI)、キヌタアゲマキ *Solecurtus divaricatus* (LISCHKE) などが採集された。さらに60尋~100尋からは ウラシマ *Semicassis Pevsimile* KURODA MS、ヤツシロガイ *Tonna luteostoma* (KÜSTER)、ビノスモドキ *Venus (Ventricoloida) foveolata* SOWERBY、ツキヒガイ *Amusium japonicum* (GMELIN) マツカワガイ *Apollon (Biplex) Perca* (PERRY)、オオキララガイ *Aofia divaricata* (HINDS) などが得られ、また100尋近くやそれ以深からは ギンエビス *Lischkeia argenteonitens* (LISCHKE) ニクイロヒタチオビ *Fulgoraria hirasei* (SOWERBY) ショジク *Bathytoma lühdorffii* (LISCHKE)、チョウセンイグチ *Lecosyrinx coreanica* (ADAMS et REEVE)、ナサバイ *Nassaria magnifica* LISCHKE、ハトムギソデガイ *Nello nella colix* HABE、オオシラスナガイ *Limopsis tajimae* SOWERBY、ワタゾコツキヒガイ *Parvamussium caducum* (SMITH) などが得られる。

駿河湾は遠州灘とは地形上きわめて対照的で、陸棚砂底は殆ど発達せず、陸岸からわずか2Kmはなれるともう200尋と言うような急深な部分の多い海湾である。黒潮の影響もきわめて強く、湾内の海流は、黒潮本流の一分枝が伊豆西岸に沿って北上し、田子浦沖で西に向きを変え全体としては左廻りに流れている。したがって貝類相も伊豆西岸を南下するにつれて黒潮的色彩が濃くなってくるが、相良・御前崎方面ではそれほどではない。底質は一般に泥底で、遠浅の砂浜が発達しないために、遠州灘でふつうに見られたチョウセンハマグリ、ベンケイガイ、サトウガイなどはほとんど採集されず、わずかに遠州灘型の地形要素の見られる相良・御前崎沿岸で得られるにすぎない。

また伊豆西岸および御前崎附近には岩礁が発達しているため、岩礁棲貝類が非常に豊富である。

第3図



- 伊豆西海岸に露出する湯ガ島層群安山岩の岩礁には タマキビ *Littorivaga brevicula* (PHILIPPI)、アラレタマキビ *Nodilittorina granularis* (GRAY)、アオガイ *Patelloida schrencki* (LISCHKE)、コウダカアオガイ *Patelloida concinna* (LISCHKE)、キノハナガイ *Siphonaria sirius* PILSBRY、カラムツガイ *Siphonaria japonica* (DONOVAN)、レイシ *Mancinella bronni* (DUNKER)、イボニシ *Mancinella clavigera* (KUSTER)、クロズケガイ *Monodonta (Melagraphia) neritoides* (PHILIPPI)、アマオブ

ネ *Nerita albicollis* LINNE、などがふつうに棲息している。また御前崎附近の軟弱な新第三紀砂岩・頁岩からなる岩礁には、ハテイラ *Tegula* (*Chlorostoma*) *pfelfferi* (PHILIPPI)、コンダカガンガラ *Tegula* (*Omphalius*) *rustica* (GMELIN) ヤエウメ *Phlyctiderma Japonica* (PILSBRY)、シオンガイ *Petricolirus aequistriatus* (SOWERBY)、マツカゼ *Irus mitis* (DESHAYES) などが容易に目につくし、1 尋位にはイガイ *Mytilus crassitesta* LISCHKE、3~4 尋ではメカイアワビ *Haliotis* (*Euhaliotis*) *sieboldi* REEVE、トコブシ *Haliotis* (*Sulculus*) *japonica* REEVE、8 尋位までにはサザエ *Turbo cornutus* Solander が棲息している。伊豆は石花菜採取で有名であるが、戸田の7 尋位のところから揚がった石花菜からはウズイチモンジ *Trochus sacellum rota* DUNKER、カタヘガイ *AnSaria delphinus atrata* (REEVE)、サラサハイ *Phasianella modesta* (GOULD)、サヤガタイモ *Virroconus fulgotrum* (SOWERBY)、マツムシガイ *Pyrene testudinaria tylerae* GRIFFITH et PIDGEON、チグサガイ *Cantharidus japonicus* (A. ADAMS) その他多くの微小種を得る事ができた。

少し深いところでは沼津沖60 尋ぐらいからボウシユウボラ *Charonia sauliae* (REEVE)、ヤツシロガイ *Tonna luteostoma* (KÜSTER)、クマサカガイ *Xenophora pallidula* REEVE、ハツキガイ *Murex* (*Siratus*) *Pliciferoides* KURODA 100 尋附近からはアヤボラ *Fusitriton oregonense* (REDFIELD) シヤシヤ *Bathytoma luhdorffi* (LISCHKE)、ネムリガイ *Siphonalia spadicea* (REEVE) また土肥沖の150 尋附近からはギンエビス *Lischkeia argenteonitens* (LISCHKE)、ウスツムハイ *Kanamarua adonis* (DALL)、イトグルマ *Columbarium Pagoda* (LESSON)、ニクイロヒタチオビ *Fulgoraria hirasel* (SOWERBY)、チョウセンイグチ *Leucosyrinx coreanica* (ADAMS et REEVE)、オオンラスナガイ *Limopsis tajima* SOWERBY などを採集する事ができた。このあたりでは遠州灘の群集と共通するものが多い。

駿河湾西北沿岸の群集についてはまだよく調査されてないが、久能山沖の2 尋~30 尋の砂底にはハイ *Babylonia japonica* (REEVE)、テングニシ *Hemifusus ternatanus* (GMELIN) が棲息し、それ以深の岩間の砂地にはヒオウギ *Chlamys* (*Mimachlamys*) *nobilis* (REEVE) などが棲んでいるらしい。

田子の浦から大井川河口にかけての海岸は清水港近くをのぞいては礫砂のところが多く打上げ貝もほとんど見られない。清水の三保沖300 尋からはアヤボラ *Fusitriton oregonense* (REDFIELD) ベソウソテガイ *Portlandia* (*Portlandella*) *japonica* (ADAMS et REEVE) が得られた。

以上が現在までに明らかにされた駿河湾および遠州灘の貝類群のあらましである。これらの沿岸の小内湾の群集についてはつぎ(その二)においてのべようと思う。